

県勢13人増(昨春比) 61人

16年以降最多、後期は8人

福島医大は二十二日、一般入試後後期日程の合格者を発表しました。医学部の合格者二十三人のうち県内高校出身者は八人。推薦、一般入試前期日程と合わせた合格者数は六十一人で昨春より十三人多く、推薦入試が導入された平成十六年以降、最多となった。全体の県勢比率は48・8%で昨春の43・6%を5・2ポイント上げた。

福医大医学部合格者

医学部の県内高校出身合格者数の推移は【表1】の通り。推薦は昨春より二人減りましたが、今年から前日間に臨床研修終了後に一定期間の県内勤務が義務付けられる「地域枠」を新設したため、定員が十五人増加。一般入試の合格者数は前期・後期合わせて二十五人で昨春を十五人上回った。

【表1】 福島医大医学部の県内高校出身合格者数の推移 (人)

年度	総定員	合格者	比率(%)	推薦	前期	後期
24	125	61	48.8	36	17	8
23	110	48	43.6	38	9	1
22	105	44	41.9	31	6	7
21	100	40	40.0	25	10	5
20	95	40	42.1	22	12	6
19	80	40	50.0	12	21	7
18	80	32	40.0	10	15	7
17	80	21	26.3	9	7	5
16	80	31	38.8	7	18	6

※推薦入試は16年から。比率は医学部の総定員に占める県内高校出身合格者数。入学辞退や追加合格による、県内の入学者数は合格者数と異なる場合がある。

【表2】 福島医大医学部の県内高校別合格者数 (人)

高校名	推薦	前期	後期	計
福島	8(5,3)	6(6,0)	4(1,3)	18(12,6)
安積	5(3,2)	4(4,0)	0(0,0)	9(7,2)
磐城	4(2,2)	4(3,1)	0(0,0)	8(5,3)
会津	5(4,1)	0(0,0)	1(1,0)	6(5,1)
安積黎明	4(2,2)	1(1,0)	0(0,0)	5(3,2)
橘	3(2,1)	1(1,0)	0(0,0)	4(3,1)
白河	3(2,1)	0(0,0)	0(0,0)	3(2,1)
相馬	1(0,1)	0(0,0)	0(0,0)	1(0,1)
いわき秀英	1(1,0)	0(0,0)	0(0,0)	1(1,0)
日大東北	1(1,0)	0(0,0)	0(0,0)	1(1,0)
学法石川	1(1,0)	0(0,0)	0(0,0)	1(1,0)

※福島民報社調べ。22日午後6時現在の判明分。かつ内は左が男子、右が女子。

後期 福島が最多4人
福島民報社が県内高校を通じて二十二日午後六時現在で調べた福島医大医学部の県内高校出身合格者数は【表2】の通り。後期は福島が現役男子一人、現役女子三人の計四人、会津

の現役男子一人の合格が判明した。看護学部は橋と安積でそれぞれ現役女子一人が合格した。昨春より二人少ない四人(40%)だった。現役九人、浪人一人で、すべて女子。実質倍率は八・二倍だった。

新潟大

新潟大と一橋大も十二日、一般入試後後期日程の合格者を発表した。



福島大主催の合同企業説明会は二十二日、二十三日の両日、福島市のコラッセふくしまで開かれていた。来春卒業予定の三年生の就職活動を支援する目的で、福島市の企業説明会は二十一日、二十三日の両日、福島市のコラッセふくしまで開かれていた。

企業採用担当者から説明を受ける学生たち。福島大主催の合同企業説明会は二十一日、二十三日の両日、福島市のコラッセふくしまで開かれていた。

阿武隈川流域の原木生産者 広葉樹利用組合を設立

安全な木材供給へ協力

阿武隈川流域で、き者が二十二日、あぶくま地域広葉樹利用組合を設立した。東京電力福島第一原発事故で出荷の自粛を余儀なくされ、現在も大きな影響を受けている。組合設立によって生産者が一致協力して安全・安心な木材を供給する体制を整える。



生産者の現状を訴える鈴木理事長

阿武隈山系を中心とした流域では、ナラやクヌギなどの広葉樹を使い建築用材やシイタケの原木、まきや木炭を生産してきた。原発事故で不安が高まり、現在も出荷できない状況が続いている。生産者からは樹林除染の研究開発と安全検査ができる出荷工場の設置を望む声が高い。原発事故以前のような生産、販売体制の再構築を目指す。組合を設立し、組合員は次の通り。

- △理事長 鈴木金一(郡山)
- △副理事長 阿崎茂幸(石川)
- △理事 橋本広栄(本宮)
- △理事 吉井行裕(郡山)
- △監事 本田三八(田村)
- △監事 関根章善(松崎)
- △監事 平田(双石)
- △監事 鈴木敏和(鮎川)
- △監事 塩田晃(玉川)
- △監事 芳賀一(古殿)

県の大坂ふるさと情報センター 今月末で閉鎖

県は関西圏の人たちに本県の情報を提供するため、平成二十一年度に大阪市のホテル内に設けた「大坂ふるさと情報センター」を今月末で閉鎖する。二十二年度二十九件、二十三年度七件と利用状況が低迷しているため。

福島市の「フミン」を視察 外国人ジャーナリスト一行



フミンコーティングの効果の説明する八木沢社長(右)

外務省の「国際ジャーナリスト会議」出席のため世界各国から招かれた外国人ジャーナリストの一行が二十二日、福島市の農業・環境資材メーカー「フミン」を視察した。

今後の県、日本を支える 福医大で学位記授与式



菊地学長から学位記を受ける卒業生

福島医大の学位記授与式は二十二日、福島市の同大で行われた。菊地一理学長兼学長が医学部七十四人、看護学部八十九人、大学院の医学研究科三十人と看護学研究科一人の計百九十七人に卒業証書や学位記を手渡した。

原子力人材育成で覚書調印へ

福島高専と日本原子力研究開発機構が、原子力人材育成に関する覚書を調印する。覚書では原子力機構の専門家派遣や施設開放、学生のインターンシップ受け入れなどが盛り込まれる。当面は平成二十四年度から三年だが状況次第で更新する。

本県関係7人入選 春の院展

日本美術院の第六十七回春の院展で、斎藤勝正さん(福島市)ら本県関係の七人が入選した。

全国優秀警察官表彰を受け

県警の一般職員採用来、三十三年間指紋係だった。これまで数え切れない指紋や手のひらの掌を鑑定し、事件解決に役立った。「こつこつ頑張った。一人でも多くの人を救いたい」と誓う。指紋係技術職員だった父の影響を受けて指紋係志した。平成十三年からコンピュータで対象指紋の絞り込むようになったが以前は一つ一つルーペで見ていた。一人で年間四千

きょうから津波 潮位観測を再開

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた、いわき市の小名浜検潮所は復旧工事を終え、二十三日から津波